



K.Miura

JRA70周年記念

THE TV TOKYO HAI AOBA SHO

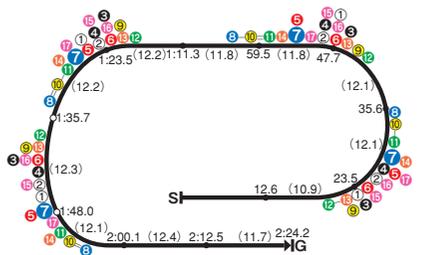
第31回 テレビ東京杯 青葉賞 (GII)

1着 賞 54,000,000円 2着 賞 22,000,000円 3着 賞 14,000,000円 4着 賞 8,100,000円 5着 賞 5,400,000円
 付加賞 1,218,000円 348,000円 174,000円



レース映像は
 コチラでご覧
 いただけます。

3歳
 負担重量 馬齢重量



2024.4.27 東京 曇・良 芝2400m (国際 種差)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	7	シュガーくん	牡3	57	武 豊	2:24.2	4-5-5-6	33.9	502(+4)	4.5②	清水久詞(栗東)	112
2	10	ショウナンラプンタ	牡3	57	鮫島克駿	アタマ	11-8-9-9	33.6	528(-10)	12.7⑦	高野友和(栗東)	111
3	16	デュアルウィルダ	牡3	57	J.モレイラ	¾	9-11-12-12	33.5	508(-8)	7.7④	堀 宣行(美浦)	110
4	1	サトノシュトラール	牡3	57	M.デム-ロ	クビ	13-11-7-8	34.0	514(-2)	11.4⑥	友道康夫(栗東)	109
5	10	ウインマクシマム	牡3	57	松岡正海	アタマ	2-2-2-2	34.6	478(+6)	7.5③	畠山吉宏(美浦)	
6	6	フォスターボンド	牡3	57	菅原明良	1¼	11-11-12-12	33.8	518(-12)	30.5⑩	中川公成(美浦)	
7	10	コスモブッドレア	牡3	57	石川裕紀人	¾	4-4-3-3	34.7	482(+2)	95.1⑬	小野次郎(美浦)	
8	9	ヘンテール	牡3	57	T.オシエ	¾	15-16-15-15	33.7	474(±0)	3.5①	木村哲也(美浦)	
9	2	アバンデル	牡3	57	石橋 脩	アタマ	17-17-17-17	33.5	436(-10)	58.1⑫	金成貴史(美浦)	
10	1	シュバルツクーゲル	牡3	57	北村宏司	ハナ	3-3-3-3	34.8	474(-18)	32.6⑪	鹿戸雄一(美浦)	
11	17	トロヴァトーレ	牡3	57	横山武史	アタマ	6-7-5-5	34.8	498(+2)	8.4⑤	鹿戸雄一(美浦)	
12	2	グランアルティスタ	牡3	57	原 優介	1¼	9-8-9-9	34.6	502(-14)	120.5⑭	寺島 良(栗東)	
13	10	マーシャルポイント	牡3	57	津村明秀	2½	15-14-15-15	34.4	476(-6)	19.0⑧	木村哲也(美浦)	
14	8	パワーホール	牡3	57	田辺裕信	クビ	1-1-1-1	37.5	476(+6)	26.8⑨	昆 貴(栗東)	
15	5	ジンセイ	牡3	57	内田博幸	1	6-5-7-6	35.5	486(-4)	176.2⑮	庄野靖志(栗東)	
16	3	ニシノフィアンス	牡3	57	永野猛威	3½	13-14-12-12	35.5	500(+4)	218.7⑯	竹内正洋(美浦)	
17	4	ロジルーラー	牡3	57	大野拓弥	大差	6-8-9-11	40.5	498(-6)	491.1⑰	稲垣幸雄(美浦)	

単勝⑦450円(2½%) 複勝⑦190円(2½%) ⑮320円(5½%) ⑯320円(6½%) 枠連④-⑥720円(3½%)
 馬連⑦-⑩2,960円(12½%) ワイド⑦-⑯1,130円(13½%) ⑦-⑯900円(5½%) ⑮-⑯1,530円(20½%)
 馬単⑦-⑯4,740円(19½%) 3連複⑦-⑯6,630円(18½%) 3連単⑦-⑯38,360円(111½%)

アラカルト

- ・武豊騎手はアドマイヤメインで制した06年に続く青葉賞3勝目。JRA重賞は本年3勝目、通算360勝目
- ・清水久詞調教師は青葉賞初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算25勝目
- ・ドウラメンテ産駒はJRA重賞通算25勝目
- ・シュガーくん、ショウナンラプンタは日本ダービー(G I)に優先出走できる

シュガークン Sugar Kun

牡 黒鹿毛 2021.3.5生
北海道日高町 ヤナガワ牧場生産
馬主・辻子依旦氏 栗東・清水久詞厩舎
馬名意味・母名の一部+時(フィンランド語)

		テイスリーUSA系 F9-g
ドゥラメンテ 鹿毛 2012	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	アドマイヤグルーヴ 鹿毛 2000	サンデーサイレンスUSA エアグルーヴ
シュガーハート 鹿毛 2005	サクラバクシンオー 鹿毛 1989	サクラユタカオー サクラハゴロモ
	オトメゴコロ 栗毛 1990	ジャツジアンジェルチUSA テイスリーUSA

5代までのインブリード：ノーザンテストCAN M4×S5 Northern Dancer M5×M5

INTERVIEW

梁川正普社長(ヤナガワ牧場)

いい仔が生まれたと思いました

まだ幼いところがありますが他馬に怯むこともなく、先に繋がるレースが出来たと思います。母馬は仔出しが良く、見栄えがする馬体の産駒が多いですが、この馬の誕生時でもいい仔が生まれたと思いました。生産馬が青葉賞からダービーへ出走するのは1988年のガクエンツービート以来です。将来のある馬なので、無事に走ってくれることを願っています。



Y.Machida

共同通信杯で3着に逃げ粘ったパワールが掛かり気味に先手を奪取。同舞台のゆりかもめ賞を逃げ切り、3番人気の支持を集めたウインマクシマが2番手に続く。シュガークンの武豊騎手は、パワールと互角の勢いで飛び出した馬と呼吸を合わせながら位置を下げ、離れた5番手を追走。ゆくりとしたスタートを切り、折り合いに苦労する場面もあったヘデントーは後方2番手で未脚勝負に構えた。緩みのないラップを刻み続け、大逃げの態勢を築いたパワールは2番手以下を7、8馬身離して直線へ。しかし坂に差し掛かると脚勢は急激に鈍り、後続が一斉に襲い掛かる。このうち、坂下で馬場の真ん中へ持ち出し、進路を確保した武豊騎手が仕掛けると、シュガークンも力強い末脚を発揮。先に抜け出したウインマクシマを難なくかわして先頭に立ち、後方から追い込んできたショウナンラフンタ、デュアルウィルダの追撃も抑えてゴールを駆け抜けた。

昨秋にはゲート試験に合格していた本馬だが、晩成タイプと見て取った陣営は先を急がず、ゆくりと臨戦態勢を整えてきた経緯がある。そのため兄と同様、デビューは年明けにずれ込んだものの、2戦目に勝ち上がると続く大寒桜賞も連勝。逃げた前走とは一転、差しに構えたこの日もアタマ差の接戦に競り勝ち、大一番への道を切り開いた。レースセンスの高さと勝負強さを感じさせるドゥラメンテ産駒にはまだまだ上積みが見込め、皐月賞組との激突が楽しみだ。

父ドゥラメンテ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首9戦5勝(日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、中山記念^{GII}、ドバイシーマクラシック・首^{G1}2着、宝塚記念^{G1}2着)、最優秀3歳牡馬、17年から供用、21年死亡。23年日本リーディングサイヤー、22年日本2歳リーディングサイヤー

〔代表産駒〕**リパティアイランド**(桜花賞^{G1}、オークス^{G1}、秋華賞^{G1})、**タイトルホルダー**(菊花賞^{G1}、天皇賞(春)^{G1}、宝塚記念^{G1})、**スターズオンアース**(桜花賞^{G1}、オークス^{G1})、**ドゥレツツア**(菊花賞^{G1})、**シャンパンカラー**(NHKマイルC^{G1})、**ドゥラエレーデ**(ホープフルS^{G1})、**ヴァレールナ**(JBCレディスクラシック^{JnI})、**アイコンテラー**(JBCレディスクラシック^{JnI})、**シュガークン**(本馬)、**サウンドビバーチェ**(阪神牝馬S^{GII})、他に重賞勝ち馬多数

母シュガーハート

北海道門別町 ヤナガワ牧場生産 不出走

アークベガサス(09 牡父サンライズベガサス)中央15戦0勝、地方8戦3勝
ショウナンパッパ(11 牡父ステイゴールド)中央54戦4勝(ノベンパーS、阿賀野川特別、ホンコンジョッキークラブトロフィー、中日新聞杯^{GIII}2着、アメリカジョッキークラブC^{GII}3着、新潟記念^{GIII}3着)、地方2戦2勝、種牡馬

キタサンブラック(12 牡父ブラックタイド)中央20戦12勝(ジャパンC^{G1}、有馬記念^{G1}、菊花賞^{G1}、天皇賞(春)^{G1}2回、天皇賞(秋)^{G1}、大坂杯^{G1}、京都大賞典^{GII}、セントライト記念^{GII}、スプリングS^{GII}、有馬記念^{G1}2着、ジャパンC^{G1}3着、有馬記念^{G1}3着、皐月賞^{G1}3着、宝塚記念^{G1}3着)、年度代表馬2回、最優秀4歳以上牡馬2回、種牡馬

ヒガシドリーム(13 牝父ドリームジャーニー)不出走

テーオーメーテル(14 牝父ゴールドアリュール)中央5戦0勝

(16 牝父ヴィクトワールピサ)

エブリワンブラック(17 牡父ブラックタイド)中央30戦4勝(天の川S、鷹取特別、地方10戦0勝(ダイオライト記念^{JnII}2着))

ネクサスハート(18 牡父ブラックタイド)中央5戦0勝、地方18戦4勝、種牡馬

キングクロー(19 牝父ロードカナロア)中央18戦1勝、地方5戦3勝 ㊟

シュガークン 本馬(21 牝父ドゥラメンテ)中央4戦3勝(青葉賞^{GII}、大寒桜賞)

獲得総賞金74,142,000円

(22 牝父レイデオロ)

(23 牝父コントレイル)

※10(不受胎)、15、24(前年種付せず)、20(流産)

遅咲きの良血馬、大一番への道を開く

本番と同じ舞台で争われるダービーのトライアル・青葉賞は、重賞実績を持たない新星たちが中心勢力を形成。なかでもジャスティンミラノの2着に敗れた新馬戦の後、未勝利、1勝クラス戦を連勝して臨んで来たヘデントーが頭ひとつ抜けた支持を集めた。とはいえ、勝利の女神が微笑んだのは対抗候補と目されていたシュガークン。キタサンブラックの半弟にあたる良血馬が遅咲きの素質を開花させ、別路線組の筆頭格に躍り出た。

共同通信杯で3着に逃げ粘ったパワールが掛かり気味に先手を奪取。同舞台のゆりかもめ賞を逃げ切り、3番人気の支持を集めたウインマクシマが2番手に続く。シュガークンの武豊騎手は、パワールと互角の勢いで飛び出した馬と呼吸を合わせながら位置を下げ、離れた5番手を追走。ゆくりとしたスタートを切り、折り合いに苦労する場面もあったヘデントーは後方2番手で未脚勝負に構えた。緩みのないラップを刻み続け、大逃げの態勢を築いたパワールは2番手以下を7、8馬身離して直線へ。しかし坂に差し掛かると脚勢は急激に鈍り、後続が一斉に襲い掛かる。このうち、坂下で馬場の真ん中へ持ち出し、進路を確保した武豊騎手が仕掛けると、シュガークンも力強い末脚を発揮。先に抜け出したウインマクシマを難なくかわして先頭に立ち、後方から追い込んできたショウナンラフンタ、デュアルウィルダの追撃も抑えてゴールを駆け抜けた。

昨秋にはゲート試験に合格していた本馬だが、晩成タイプと見て取った陣営は先を急がず、ゆくりと臨戦態勢を整えてきた経緯がある。そのため兄と同様、デビューは年明けにずれ込んだものの、2戦目に勝ち上がると続く大寒桜賞も連勝。逃げた前走とは一転、差しに構えたこの日もアタマ差の接戦に競り勝ち、大一番への道を切り開いた。レースセンスの高さと勝負強さを感じさせるドゥラメンテ産駒にはまだまだ上積みが見込め、皐月賞組との激突が楽しみだ。